

「日米同時金利高」とドル円下落の背景

利上げ観測とタームプレミアム拡大観測で長期金利上昇が続く

日米債券市場の利回り推移

2024年1月～2026年9月7日（日次、単位：%）

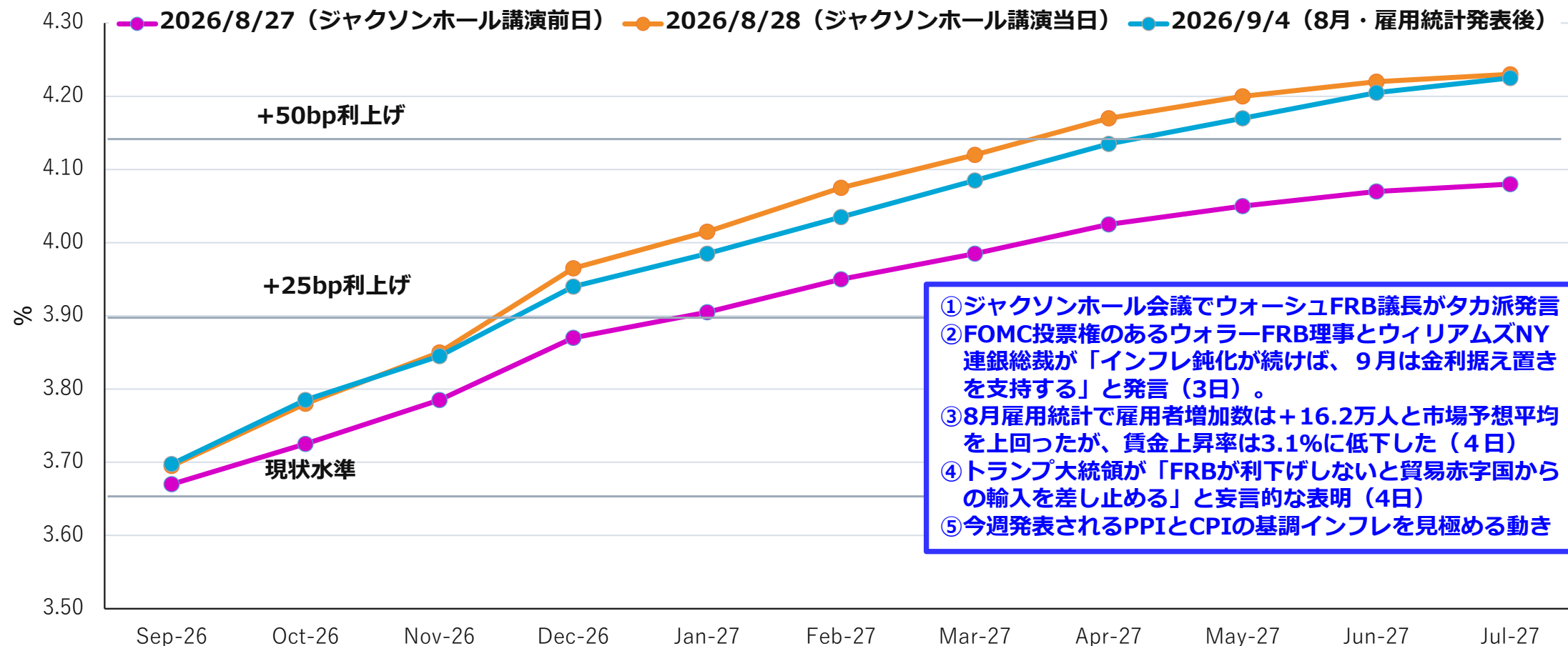


出所：日銀、FRB、債券市場実績（日次：2024年初～2026年9月7日）をもとに作成

金利先物市場が織り込むFRBの金融政策

雇用統計発表を受け9月利上げ確率は58.4%に上昇：今週発表される物価統計が焦点に

シカゴ（CME）-FF金利先物の清算値から算出した市場の織り込み金利



注：織り込み金利 = 100 - FF金利先物清算値。8月27日は8月28日の前日比から逆算。出所：CME Group（30-Day Federal Funds Futures）、2026年9月4日終値時点

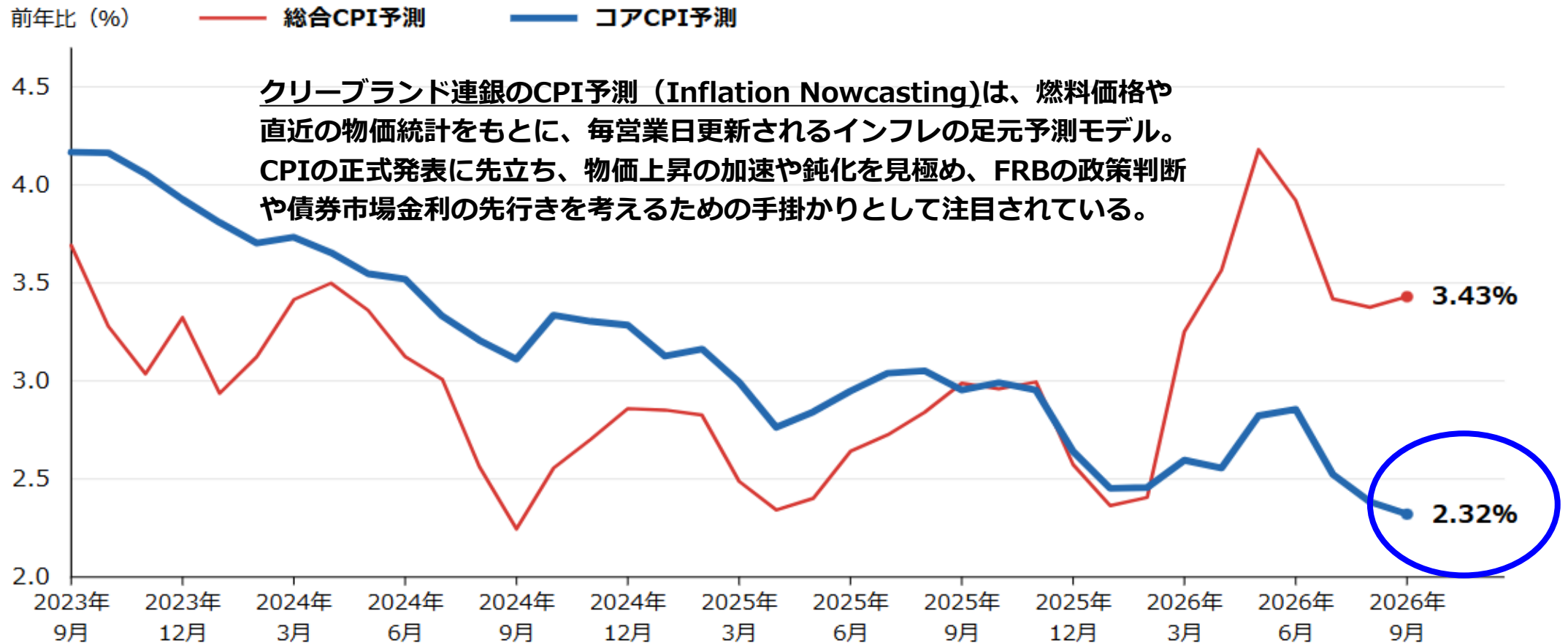
来週のFOMC「基調的なインフレ」を注視する

インフレ予測は鈍化しているー10日発表のPPI、11日発表のCPIに注目

クリーブランド連銀のインフレ予測

2023年9月～2026年9月 | 総合CPI・コアCPIの前年比予測（2026年9月4日時点）

各月の最終予測を月次で表示。2026年8・9月は9月4日時点の最新予測。

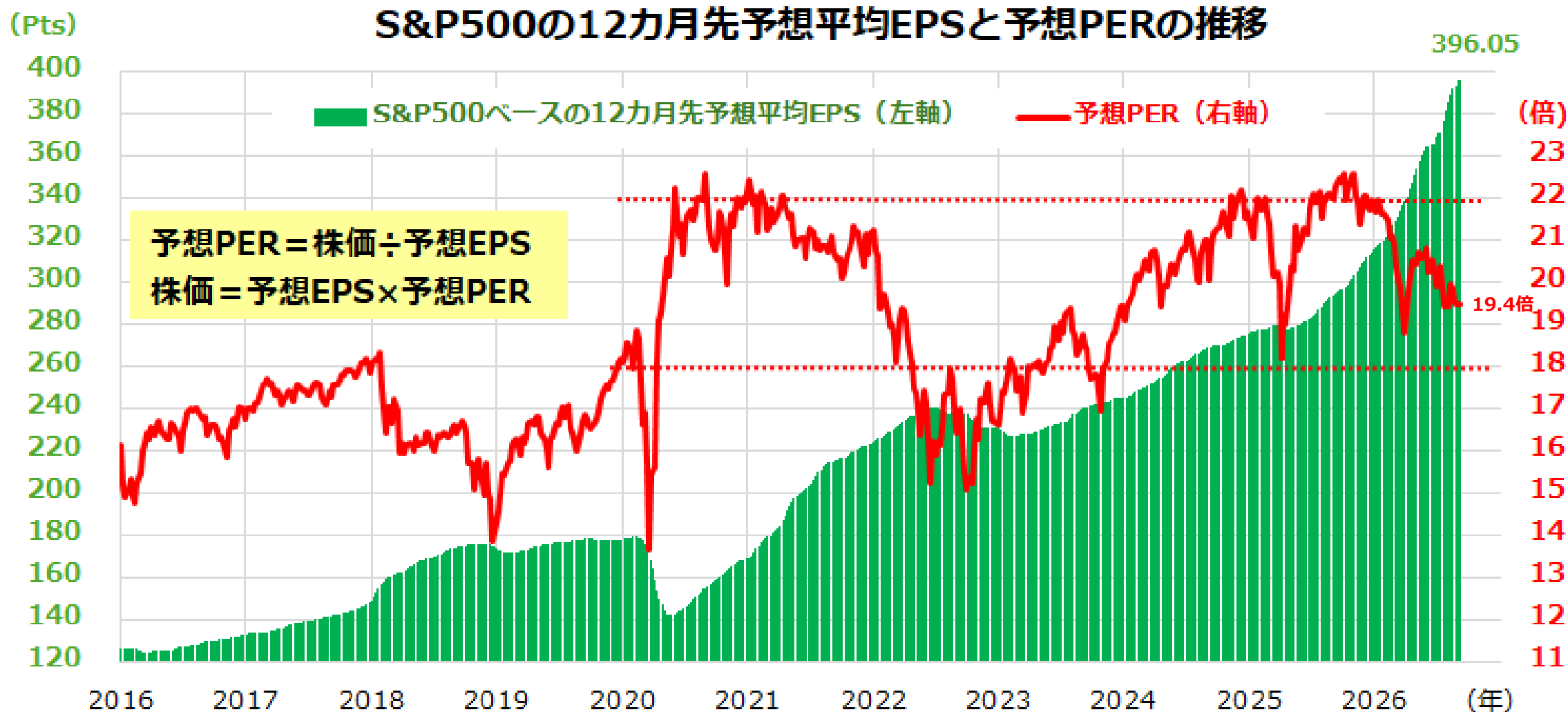


注：実績値ではなく、原則として各月のCPI発表直前の最終予測を表示。コアCPIは食品とエネルギーを除く。

出所：クリーブランド連銀「Inflation Nowcasting」

米国市場で先行き不透明感が予想PERを抑制

中東情勢緊迫化と原油高、利上げ観測、中間選挙に向けた不確実性で予想PERが低下



大手総合商社株、長期投資の魅力を再評価

バークシャーのアベルCEOが長期保有方針を再確認し、商社株の再評価を後押し

5大商社株とTOPIXの比較推移

2020年1月6日終値＝100（株式分割調整後） | 2026年9月4日終値まで

5大商社（2020年初からの株価上昇順）＝丸紅、三井物産、三菱商事、住友商事、伊藤忠商事

先週来日したバークシャー・ハザウェイのアベルCEOは、5大商社株を今後半永久的に保有する意向を表明。世界に広がる情報網と収益基盤、複数の成長事業分野にリスク分散投資、配当・自社株買いによる株主還元が商社株の魅力。バークシャーの長期保有姿勢が内外投資家による商社株の投資価値再評価に追い風に（バークシャーは2020年8月末に商社株それぞれの5%超保有を表明→23年6月に5社平均で7%超→26年現在10%超保有に引き上げてきた）。

バークシャーが最初に商社株保有を公表したのは、2020年8月31日

